



初學訓

五終

□ 9  
4457  
5



09  
4457  
5

初学割奏之五

貝原篤信著

耳目に腹の欲をほいまくにて一割候と  
思ふと其樂いささけてさる内亦早くさ  
ある酒合急欲を遣して樂いひとさると其  
樂乃内より早くさるをさるめくのとさ  
すてはさるめくは快き事ハ終よハ必りさ  
とある後の穢をぬきればさるは快き事ハ  
求むるは又さるめくは若くはつとむれば必後



初学川五

乃其系しょうごんとわら味あじの純酒じゆんしゆ含くわん紙しとこせいのちり  
 まら病びやうおらりあつと業ごう紙しのこわつと各かく紙しと  
 走そうの必ひつ後ごの病びやう去きて身みの益えきとちるる如ごとく  
 養よう生せいの道どうも亦またよくけしとて慾よくとこつとゆるみ  
 あり養生ようじやうの要ようの飲いん含くわん色しき慾よく紙しとてとこ  
 以もつ名なと和わもを氣きとと平へいりあつと好こうとつとるる  
 走そうの思しひとすこふ又また風ふうを暑しよ濕じつ乃すなはち外がい邪じやと  
 防ぼうくつと飲いん含くわん色しき慾よくの肉にく慾よく也なり風ふうを暑しよ濕じつの外がい  
 邪じやとつとれた人も肉にく慾よくとこつと外がい邪じやとるる

るれの病びやうよおつとれて長ちやう生せい紙し得とくつと又また生せいれつと  
 よいづれとよく保ほ命めいとれの天てん来らいとたつとらて長  
 壽じゆ也なりつとるる河かより卑ひく養よう生せい紙しとてつとつと  
 血けつ氣きさうんあれの飲いん含くわん色しき慾よくけしのいま也なりいほ  
 けしと飲いん含くわん色しき慾よくとけしのいまにそれの元げん氣きは  
 三さんて經けい命めい也なり中ちゆう年ねん紙し紙しの色しき慾よくより飲いん含くわんの慾よく  
 外がい邪じやもわらつとつと病びやうおらりやとつと人の天てん年ねん  
 と多たなり紙し紙しして早はやく死しわらへ多たくの飲いん含くわん色しき

衆の二よやうするれいかり九世生の術を細  
から事の方書に多くのせりりとしてくも其  
大要のむくのこくあるはるる方の

公の志のつちるるさといつてあつたに志のつちるる  
ゆりゆも志のつちるるをくつて道埋  
とつちるるのつちるるをくつて道埋  
と止水い志のつちるるをくつて道埋  
慮いあつたはへつちるるをくつて道埋  
意いあつたはへつちるるをくつて道埋

うあつて足家にまよひの道法をれいりり事  
ゆくるるに迷ひゆとく人よ欺り進身の福人れ  
憂と志のつちるるをくつて道埋  
い志のつちるるをくつて道埋  
ひして事の是非と後の徳を考へつて  
美事と行ふ待といふ字と用ひつて待は  
意なりとさる事はいふをくつて道埋  
業一詳よ行ふと云ひのむくもれいりり  
あ一事と行ふといふと云ひのむくもれいりり

此あやまりのつり稽子も事以急ヒラ而敗ヒ者十  
常以七八といつり待ヒの意あつるるの詳  
あていそろによくと棄するはつとあころい  
はうせけして意あつるるといそろに何レなく  
るくいあレ

古の君子ハ朝夕只天道の眼前ニあつるるが  
らいてはひよんも事とねそれけくして  
天よそむくは今の人の天道ハもろくふをた  
るすそつら身よあつるるはひよそむく

天とあさひれたそむきをねとけのむに無  
とねむいなるるひいてやめと是天道とあさ  
ひきをねそれさる也凡の人のあさひ結ハ  
處のつりのむねをよひしてふたとねむい天  
のあさひ結ハ結ハ人物をねきをねしてふね  
しめあさひるい天よしむくたり天地の子  
としてけくもなるるよのあさひ是父母れ命  
るるそむけたてつるるさるるあさひ天道よふ者  
から也天道地をるる



言ふはたの天道より其返報とらどし終ふ  
天道ハ廣大なりてみらるに其志終らばけ  
とほり必ししくいなり天道ハおそる人しあ  
のちる人ハは理と志はして天道と地を  
もと悪公よりて言ふ終ら志はかくて悪公  
終ひても只神佛よははくといのりてさ  
らんと求めつらんとそのまゝ守るわん  
人よりくち悪公とくし人間乃肉もても公明  
くみ私すくちたれ正直より人ハ人のたつとい

求しる公このまは理とまけて人よ私をたてん  
や神ハ聰明正直なりて私をけさへらんそ人  
乃平生言ふ終らんとて只るつらと求し  
考し私してさといとあへつらといとゆ  
し終らんやけ理明くありて志らやと一又  
右倍し神ハ非禮とくも終らといつら神ハ正  
と終らる人乃道理よりなるさるあふと終  
と終らるも終ら終らたら菱屋相乃奇に  
んは終のたよりいれいの終らとて

神や悔りん又曰わやまりのあつの中こそも  
あついの信くは何いのうんとよみ終つり  
け二首の道理を極せりあつに九は  
理をれりて明くあつていつたろ無字を信  
人も知やとて信まても九まの道理に  
く利欲少くま故言ぬゆい悪証せされ  
天道にさひさひあつてけさついな  
理とあつに只欲をて非禮のまらぬく神  
佛よるつひいのり又権勢あつ人よるつひ

求りて財祿をばんとはさしと天道神明よ  
の私をけまいるつてくまをて福とあつ終つと  
とがあらぬゆり終つとあつらふお祈の具  
志終まらる今日のみ人にあついなちと又  
非禮をみて神よいのり人よるつひあつて  
福祿と得る者まればありて終つ生れ付  
くるさひさひの内をけつる也あつひ求  
めてけつるよあつに百人よ一人もあ  
らひ求りて其生れ付るさひさひとあ



若わいの愚人はつ終はほよいてるつゝ人は怒り  
ゆゑりてを得そこらいてるつゝいひいひ思は  
ては理とあつたれいなり

お人の神よいのりしに君父のよあふのり又よの  
わやまんとぬちあふつらまをいり後あり  
敬あり其と禮をくしとまらるゝと西神母  
いのりしに其福はくけり理もあく禮もあ  
行るゆき神よるつゝい行るいわははま  
しあづらつたてまらるゆき社は福と

云 遠祖の福ありとつら家とち終神よあ  
されい行るまても利生なりとらりけの君はつ  
ふととて地乃君よつゝ終りあつたにるい  
ていのとまき神よいのりしに其志るゝある人道  
あくと新ゝの神に非禮とくけむいされい行る  
しも志るゝのりつゝ

おとそ人とせられていそつたしひまごもとあはも  
ままもさも只おつらつゝいあまうゝ後徳はあ  
りら身にあつゝあまもさゆいて人のうも人然

あつれと死くこ人のく終るも終るもけ  
終るははの母是とみく志くす人け  
徳といふの中い若くもらて人よ志  
まんとりと求りるを云凡言終るの道  
いふ名あてゆる人病者くこもるものを食  
美人をたけ終る孤獨のぬよりあつれ人  
をありれりくじしとむく妻をたて終る  
云むくまをたてと寡く云いけあくして  
又あつれと孤と云むく子をたてと獨と云い

四乃ものハ終るハ人あて終るもの  
されハ困窮困窮する民かり仁を終る人とも  
くよハ先此等の人とあつれす人これ又  
つ中とつと終るも終ると同く天地の子され  
えりの同胞同胞の所不孝なる人也たあつれむ  
つすすて人けら利あつるすとあつれ害  
あつる事とのそ、人ハ害よあつる事と  
あつれくあつてうらむすくうけつるを  
樂く中人とそ人とらあつむつあつ

一り道る人ハ一りの一人の如く樂しむんと  
 て多くの人民とく樂しむ見大なる不仁  
 かり只まれいなり樂しむる民とさゆめ  
 樂しむ一人の如くともさつ一人の樂しむ  
 とそのしむ一  
 人と才能とありそよつた人と威勢とあり  
 そよるる人乃才ある如くねじつと  
 そのさきんとして人をさ立つ一我のさきん  
 とすつたをけつと人とさ井つた人と

さいもの物とやある也不仁と云はつ  
 富ていすつとさき如くとも貴くしてい  
 さき如くあつとつと又つとつと人を  
 そよはつと人如くとも井つた即ち如  
 けつ也人ハ才ある若くはつとつと  
 あげそつとつとつとつと云井つとつと  
 人とそつとつとつとつとつとつとつと  
 行ある如くつとつとつとつとつとつと  
 不義也 鄙狭とさつとつとつとつと

元也。仁公をりし所に音成りし事。其實  
ありて人の志んもと成りし音成りしこと  
くひのさひもひわんもと成りし事。これ陰  
徳あり陰徳と成りし事。かくのこくにて久  
しけしこと言はれり。さういふ事。豈を  
わくし所んや。後漢の明帝。其弟東平王  
よ同く汝家よ居く。何をりし樂くするや  
とのこまひしに。東平王と答て。音成りと成事  
家樂のんと。りり元世。同乃樂よ。音と。りり

かといふなり。らく樂く。しんまも。其か。に。又。何く  
わんや。匹うらまの。とも。か。く。と。音成。と。れ。ハ。樂あり。日  
日。よ。音成。り。し。て。や。ます。ん。ハ。其。け。り。ハ。樂。跟  
たり。り。ん。況。留。美。れ。人。を。や。東。平。王。の。音。し。ん  
あり。音と。成。り。し。事。の。こ。く。も。い。は。れ。ハ。成。り。し。事。  
を。の。つ。く。て。又。道。神。明。乃。め。く。と。わ。り。て。け。り。し。ひ  
き。く。い。ひ。い。ひ。あり。其。事。も。り。れ。必。る。め。り。し。事。  
る。事。聖。人。の。と。之。明。り。たり。又。ハ。古。今。之。天下  
乃。よ。え。れ。の。せ。り。り。亦。及。り。り。然。り。り。り。り。り。り。り。り



生けしる禍福あり是天人命也此ことらの理  
あり事とさるる一をさるるは生れ付けし人の  
酒色をやりいまくはく人合し毒物とくは  
て長命なる人ありそれいとも終て元氣あ  
つと人かり事とさるるはり一人のまさ  
つひをたとらて事の理とさひ酒色とさ  
いまくはく人合し毒物とくはり必病とさ  
まて短命なる人合し毒物とくはり禍福あり  
まさるははし理よはりのり

おや先祖よ吾人の世も子孫あるは先祖乃吾  
乃むくいなりわや先祖悪人されも子孫吾  
人されは先祖の悪れむくいとまぬる子孫  
とら人吾世のいにてわや先祖の悪れ禍あり  
のそく

天地の業物とさるるはくそそそ終て父母たりん  
其うり於あり人倫は天地の子なれは是と  
わかれ終て人のわやの子なれはあり  
うりはく其うり人倫と業物

帝とこれの天地の清公よつて必ふいふ  
 を下し給ふこれとく給ふとてまゝの天地の  
 中をいつて必ふさつと下しまよふを  
 つい人のわちのまら子ぬいゆ中じ老ぬより  
 して其恩ぬげいんふとさひつの子ぬ  
 たりたふ老といつりみくそて其信と報せん  
 事とさつとぬし天道の世をくくこれと  
 して只神よるつといのりて福ぬ得徳を  
 のまんとんさむも人備とをさたに生物ぬ

うこまの天地神明のあつれをめぐりて天罰の  
 うれこし罪と天よ獲まの徳とあめと聖人  
 とのまらうこふつとに世をくく  
 善ぬぬい人民ををまこれの必天のあくとわりて  
 善あり善ぬぬいして必善とゆふ善者の善  
 かなぬとぬいしてりさつといとのまぬ人の  
 只智者のまらりて善ぬたてし一善者のつと  
 をまらうこふつと  
 天地の清公よまらういて人とあつれと人の善

をさといひ飢とあふけあまいたとやう言とは  
福よ終つて人の必天地のりくこわり神のり賜  
わり是人とととこつて身のさといふとた  
ちられは是よ及つる大なる行終るく功徳を  
し世の人世裡をさといひ神佛よあまのり  
つといふ又の功徳とあふとあひて民に益を  
るすといふくくれ財とついやし用ととも不  
仁ありて人倫とあふれまされいづか財と  
かと公取といひのさといふ天道神の賜を

して身にけり子孫よとさといふをい思ふ  
書ふ志終つて近代の語も終つる處徳人よ  
わたり見聞をるあわさうちり神と福と  
得福をその終んとあつて福とあつてとい  
をのり終つて道をさといふ其道をさとい  
ふあつてつりにあつてくも其志終つて福を  
あつて福をそのりつて道といふ人々の困窮  
をりくこ人乃害のりつてさといふとぬを  
飢寒とあふけ饑寒孤獨の貧人とすとい



法の言はれりよ及つ法は行はれりはけり  
 は即ちいさくけくのちをうるとはくして初ま  
 戒じとも思はれ及よつうにをあらん人の思  
 と初して言はつてかさわる言つてあらとま  
 し其れくことうく法事多くの人より益  
 ありつり身にも亦そのしもありはれよ  
 身の福とちり同く財とつりや一用いて  
 功德と思ふとも天道よりなりは人氏をど  
 くりと益益のゆに用ひて世のたうと

けりやて入りてせりはれりと思はるは  
 一を法ともしりこ一れちのゆとめんう  
 よもけ道理をうりてとされともをたうと  
 引よも及びつり日の奉百年のまこ乃  
 うりめつりてまのわらりに見せは世間  
 の徳人のなさをゆと考へんて其の益有  
 と益るれと法と多く一凡俗人の益を  
 して道理よくくさのちりは利分の換  
 得をもあはれはあよ言はれりて天道り

うる人の必天よりこゝの人もよりこゝのひてけさうひ  
たうさういといわりあふは終ひて天道にまじ  
けの必天より人うらえてけさうひわりさう  
といちたゑるすとさうはつひよ天道とせられ  
とて久いそあなよりそしと私欲ありい  
はあつとたう天の子とてあはれとあふ  
人とあつとたうとあなよりと終ひち身乃  
まじつひとりのち身のわりあつとたうとま  
て樂くまつひよ天道神聖のちあつとあ

つてそいされいやまはくあつとまはつとまは  
理よりさうさうのさうは損得とさうさうと  
およそ人のけさう河よりとまはつとたうは  
まは友よ進つとす益あり師友とあつとあつ  
てらうはくつと人はあつとたうふらうとさう  
つと才智をさう人はあつとたうたう聖人の  
道はさうさうさうをせあつとあつとあつと  
まはつとさうとあつとあつとあつとあつと  
をさうとあつとあつとあつとあつとあつと

く我も同じいものかと思ふて思ひ成りて  
おこころは孝ふ人よ益ある事をして人を物  
多に天道をせられうやまひ身をねむるま  
天地の道よ志するいへくまふ人となれる  
者一生乃同つとむき及ばぬにさふあふ  
くは起ていはいへくまふ人となれる  
くは起る天道の必れをくまふ人となれる  
のりあ

享保三戊戌年陽月吉日

文化十二乙亥年

勝 鳥喜六郎 蔵板

心齋橋筋南本町

大坂書林 上田 嘉兵衛

六角通鼓屋町東八町

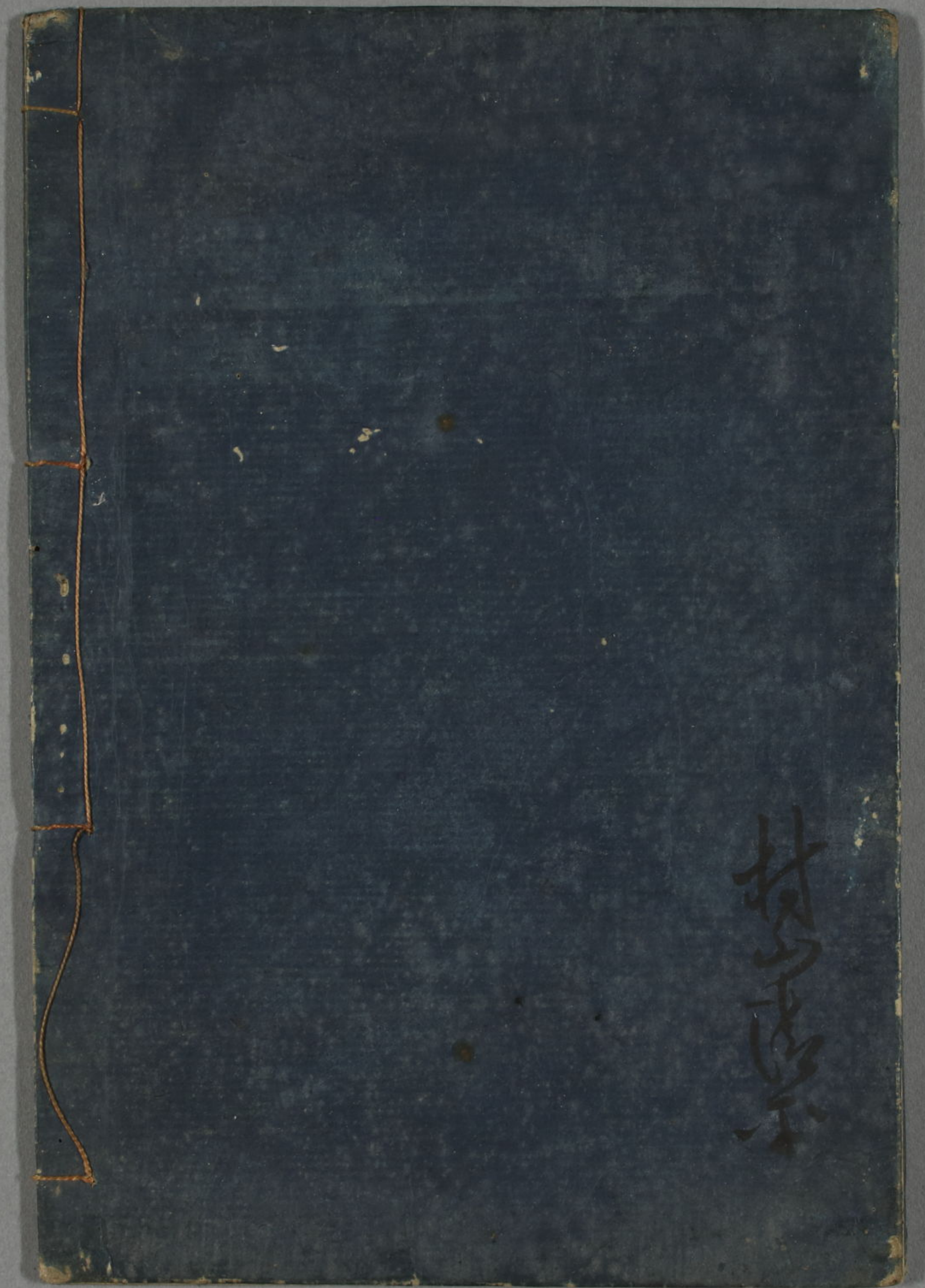
小川 多左衛門

寺町通錦小路上町

上田 半三郎

二條通寺町西八町

皇都書林 山中善兵衛



茶室